

培ってきたナレッジの継承

ナレッジとは知識や情報、知見といった意味を有しています。後進への継承はどの業界でも大きな課題の一つですが、当社も例外ではありません。コンサルタントの資源は「人」であり、無形であるナレッジの継承は非常に重要なテーマです。

伝える取組① コンサルタント業務のキュレーション

キュレーションとは、特定の視点で情報を収集、選別、編集することで新しい価値を持たせ、それを公開することを指す、IT用語です。当社では、これまでの業務を通じて得た技術や知見を整理することで歴史や背景が見える化し、アウトプットを共有することでナレッジを継承する試みを進めています。

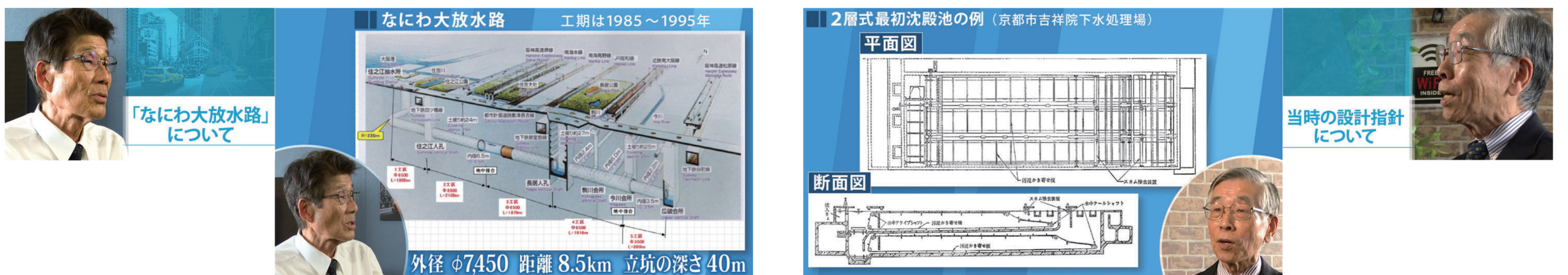
雨水関連技術の取組例

これまで	1980	1990	2000	2010	2020	現在	これから	
雨量	抜本的な対策整備の時代			面的できめ細やかな対策の時代		浸水リスクの見える化・制御の時代		
点	施設整備 増補管計画		貯留管計画				より能動的な雨水管理の実現へ	
地点流量	旧実験式	新実験式	合理式				雨水管理総合計画	気候変動対応 流域治水対策
線	幹線・ポンプ場設計		人孔蓋浮上対策				内外水・局所・高度解析の適用	
水位縦断	一次元不定流解析		空気圧解析				地下街浸水	CFD解析
平面			浸水対策基本計画		面的再構築計画	ネットワーク計画		活性汚泥モデル
ネットワーク	修正RRL法		一次元不定流解析				予想情報による運転支援	
空間			局地浸水対策計画		既存ストックを活用した浸水対策	内水ハザードマップ		降雨予測
地表浸水					地表面・地下一体解析	内外水一体解析		水位周知
時間	リアルタイムコントロール(RTC)							AI浸水予測
現時点/将来	オフライン解析		降雨情報システム		レーダ雨量解析	実時間解析		リスク配信による減災支援

伝える取組② 見る継承 超ベテラン職員のインタビューYouTube動画の配信

水コンサルタントの技術者は業務経験が財産となります。時代によって、水インフラに求められる役割は変化してきており、既存技術の経緯や背景を知ることが今後の水インフラへの課題解決に向けた大きなアドバンテージです。

60年以上の歴史を有する当社では、技術者歴が50年を超える職員も在籍しています。技術指針や先行事例がない中で数多くの業務に携わってきた超ベテランの知見をインタビュー形式で動画に残す試みを進めています。



伝える取組③ 聴く継承 気軽に聴ける対談ラジオ番組の配信



情報媒体はテキスト・動画・音声といった様々な種類がありますが、それらはスマートフォン等で手軽にアクセスでき、内容や利用場面によって使い手が選択できる時代を迎えています。当社では、通勤や休憩の時間を活用し易い音声に着目し、各分野の技術に特化した職員(当社では「マイスター」と位置付け)から当該分野のポイント等についての解説(例:シールド工法のトラブル、仮設はケチるな等)を音声ファイルとして配信する試みを進めています。

これまでがこれからの彩る
コンサルタント資源である
「人」を繋いで未来を創ります

